

# 北海道上川郡下川町における 地方創生の取組み

## — 戸田建設の地方創生SDGsモデルの構築 —

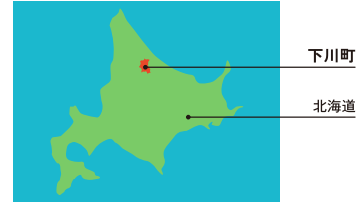
地方創生に関する包括連携協定  
2023/7/18 協定締結

戸田建設と下川町は地方創生に関する連携関係を構築し、相互の持続的発展に寄与するために包括連携協定を締結しました。未来へ向けた持続可能な地域づくりへチャレンジすべく、企業と町が一体となり地域の活性化を目指します。



### 下川町の概要

人口 : 2,977人 (2023.5.1)  
高齢者 : 1,205人 (40.5%)  
面積 : 644.2km<sup>2</sup> (東京23区相当)  
森林 : 569.8km<sup>2</sup> (総面積の88%)  
気候 : 夏30℃、冬-30℃  
産業 : 農業、林業



### 取り組みの方向性

- [1] 農業・林業を中心とした地域産業振興・雇用創出の推進
- [2] 脱炭素社会に向けた愛誠可能エネルギー創出・活用の推進
- [3] 少子高齢化に対応したまちづくりの推進
- [4] 地域の防災・減災の推進

## 戸田建設の2023年の具体的な取組み

### ① 農業・林業を中心とした地域振興・雇用創出に関すること

#### 1. 農業関連事業

- 下川町での夏秋イチゴ栽培 ▶ TODA農房ブランドで販売
- ・「スマート農業」「再生可能エネルギー」「農福連携」で差別化を図ります。
- ・周辺農家とのコラボレーションなどを通じて異業種間での連携を目指します。
- ・やまびこ学園と協働して農福連携に取組み、ダイバーシティに目配りした運営を目指します。

#### 2. 林業関連事業

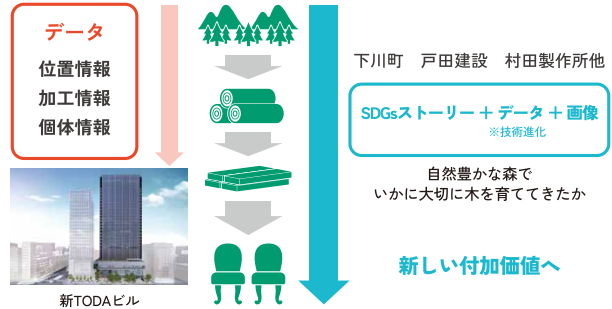
- 木財トレーサビリティ関連 ▶ 新TODAビルにて実証予定
- ・FSC認証を通じ、内装材・家具などの利用者が、その木材が森林で育っていた姿や加工されたプロセスを確認できる情報を提供。木材への新たな付加価値を創出します。



町内ハウスでの栽培の様子



販売のイメージ



### ② 脱炭素社会に向けた再生可能エネルギー創出・活用に関すること

#### 1. 可搬式太陽光発電システム

- 移設の容易な太陽光システムの稼働実証
- ・山間部など商用電源が導入しにくい場所や、イベント会場など一時的に電源が必要な場所での活用を想定。
- 垂直設置パネルによる冬季発電検証
- ・除雪不要な垂直設置パネルでの発電実証。

#### 2. 再生可能エネルギーの農業への活用

- 既設インフラ(バイオマス熱供給)の利用拡大
- ・既設インフラであるバイオマス熱供給の民間利用の先行事例を目指します。
- 太陽光発電等の併用
- ・太陽光発電システムなども併用し、環境負荷の小さい「オール再生エネルギー」を目指します。



電気+環境価値が目的



垂直設置パネル



出典:SMOUT移住研究所ウェブサイト

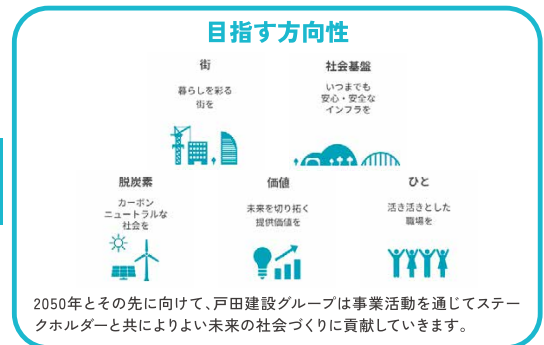
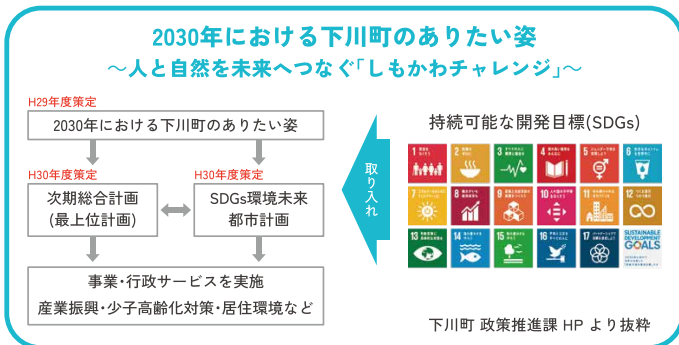


バイオマス熱供給の農業利用イメージ

### ③ 少子高齢化に対応したまちづくりに関すること

#### 1. まちづくり(コンパクトシティ)に関する検討

- ・「2030年における下川町のありたい姿」の実現に向けて、行政・住民と協働で課題を洗い出し、実現性と実用性の高いまちづくりの実施のサポートを行います。
- ・特に「自然資源」「未来世代」「安心・安全」「循環・持続」に注目し、サステナブルな下川町のみらいのカタチの実現を目指します。



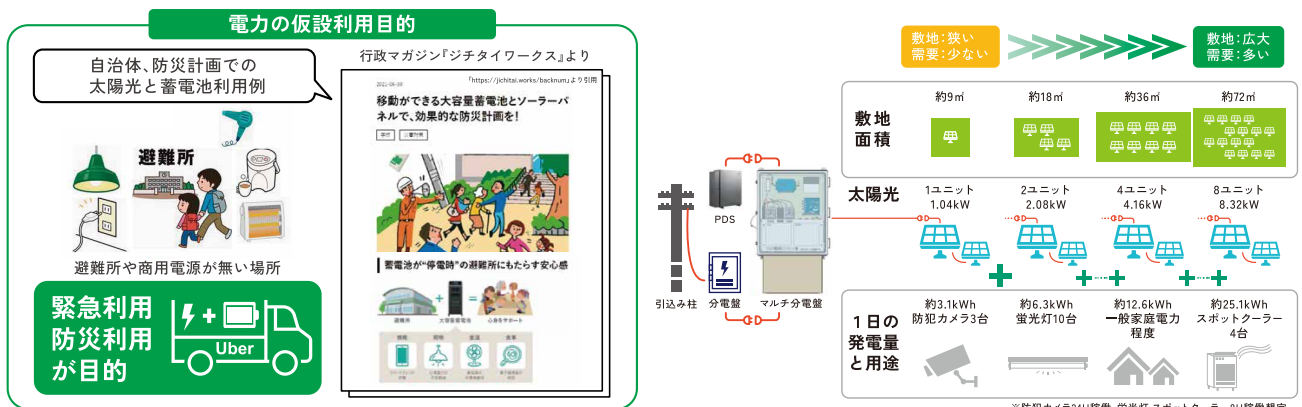
### ④ 地域の防災・減災に関すること

#### 1. まちのレジリエンスに関する検討

- ・下川町強靱化計画をふまえた「しなやかに強い町づくり」のサポートを行います。
- ・「救助・救急活動等の迅速な実施」に着目し、非常時における自立分散電源活用など危機に強い下川町の実現を目指します。

#### 2. 救助・救急活動等の迅速な実施(可搬式太陽光発電システムの防災活用)

- ・可搬性と蓄電池搭載、拡張性などの利点を活かし、避難所などでの電源供給拠点提供など防災対策として活用します。



## 下川町の持つナチュラルリソース(自然環境)を活用した地方創生



戸田建設の取組み

下川町の持つナチュラルリソース(自然環境)を活用した地方創生